

平成20年度 区内文化芸術団体に対するアンケートの実施結果について（概要）

- I アンケート実施結果概要
- II アンケート依頼・設問内容

I アンケート実施結果概要

1 目的

区内で様々な文化・芸術活動（以下「活動」という。）を実践している個人・団体の方々の声を数多くいただき、新宿区文化・芸術の振興に関する懇談会における議論を更に充実したものにしていくため実施した。

2 対象

- (1) 新宿文化センター、生涯学習館、コスミックセンター等の区立施設で文化芸術活動を行なっている個人や団体：666団体
- (2) 区の後援・共催名義の承認を受けたことがあり、区内に活動の本拠を置く文化芸術活動を行なうNPO法人等：37団体

3 内容

対象者の活動状況、活動内容、活動上の課題など

4 調査方法

アンケート用紙及び返送用封筒を対象者あてに交付することにより依頼

5 回答数

アンケート依頼数	703
回答数	345
回答率	49.1%

6 アンケートの実施結果について（概要）

問1「活動分野」について

「バレエ・ダンス」69団体、「クラシック音楽（オーケストラ、オペラ、合唱など）」50団体、「華道・茶道・書道」42団体の順に多い。

また、そのほかにも「美術（絵画、彫刻など）」29団体、「伝統芸能（歌舞伎・能・狂言・文楽・日本舞踊など）」21団体、「工芸（陶芸・染色など）」18団体など、幅広い分野で活動している回答が得られた。

活動分野（上位）

- ① 「バレエ・ダンス」69団体
- ② 「クラシック音楽（オーケストラ、オペラ、合唱など）」50団体
- ③ 「華道・茶道・書道」42団体
- ④ 「美術（絵画、彫刻など）」29団体
- ⑤ 「伝統芸能（歌舞伎・能・狂言・文楽・日本舞踊など）」21団体

問2「活動の目的」について（最もあてはまるもの1つ、それ以外に該当するもの2つまで回答）

最も当てはまるものとしては、「同じ趣味・活動を行う人の交流の場を確保するため」86団体（24.9%）、「活動に関わる文化・芸術の技術やスキルを向上させるため」78団体（22.6%）が多い。

複数回答の中では、回答のあった345団体中211団体が「同じ趣味・活動を行う人の交流の場を確保するため」、137団体が「活動に関わる文化・芸術の技術やスキルを向上させるため」、100団体が「活動に関わる文化・芸術を広めるため」をあげている。

活動の目的（複数回答／上位）

- | | |
|--------------------------------|-------|
| ① 「同じ趣味・活動を行う人の交流の場を確保するため」 | 211団体 |
| ② 「活動に関わる文化・芸術の技術やスキルを向上させるため」 | 137団体 |
| ③ 「活動に関わる文化・芸術を広めるため」 | 100団体 |

問3「活動のきっかけ」について

297団体が未記入であり、有効回答が得られなかった。

問4「活動期間」について

「7年以上」の団体が226団体と最も多く、回答の65.5%を占めており、ついで「3年以上5年未満」38団体（11.0%）、「5年以上7年未満」34団体（9.86%）となっている。

活動期間（上位）

- | | |
|--------------|--------------|
| ① 「7年以上」 | 226団体（65.5%） |
| ② 「3年以上5年未満」 | 38団体（11.0%） |
| ③ 「5年以上7年未満」 | 34団体（9.86%） |

問5 「団体構成員数」について

「11人～20人」の団体が135団体と最も多く、ついで「10人以下」の団体が84団体を占めている。20人以下の団体が219団体と全体の63.5%を占めている。一方、51人以上の団体も40団体ほど存在する状況にある。

団体構成員数（上位）	
①11～20人	135団体
②10人以下	84団体
③31～50人	47団体

問6 「活動の頻度」について

「月2～3回」の団体が130団体（37.7%）と最も多く、ついで「週1回」の団体が104団体（30.1%）となっており、この2つの回答が67.8%を占める状況にある。

活動の頻度（上位）	
①月2～3回	130団体
②週1回	104団体
③月1回	37団体

問7-1 「活動拠点（新宿区内・区外）」について

活動拠点の新宿区の内外の別については、309団体（89.6%）が区内に活動の拠点を置いている。

活動拠点区内外別	
①区内	309団体
②区外	20団体

問7-2 「活動場所」について

区内の活動拠点については「生涯学習館」・「コズミックセンター」が217団体、「地域センター」が32団体、「文化センター」・「区民ホール」が16団体、「学校」が9団体、「ことぶき館等のその他の公共施設」が10団体となっているが、老人ホームなどの高齢者福祉施設、警察署、公園、貸しスタジオ、矢来能楽堂、目白聖公会等の各施設を利用している団体が29団体あった。

また、隣接する豊島区・中野区、渋谷区の施設など42施設について区外の活動場所として回答があった。

活動拠点（上位）	
①生涯学習館・コズミックセンター	217団体
②地域センター	32団体
③文化センター・区民ホール	16団体

問8 「区立施設の認知度」について

(1)「使ったことのある施設」として、「各生涯学習館」206団体（59.7%）、「四谷・箆笥・角筈区民ホール」169団体（49.0%）、「各地域センター」124団体（35.94%）、「文化センター」87団体（25.2%）となっている。

(2) 「使ったことのある施設」または「使ったことはないが、鑑賞などをしたことがある」としては、「四谷・笹笹・角筈区民ホール」322団体（93.3%）、「各生涯学習館」221団体（64.1%）、「文化センター」212団体（61.5%）「各地域センター」153団体（44.35%）となっている。

問9 「活動の成果」について

最も当てはまるものとしては、「活動を通して団体目的の実現・自己実現を図ることができた」113団体（32.8%）が多い。

また、複数回答の中では、回答のあった345団体中162団体が「活動を通して団体目的の実現・自己実現を図ることができた」、137団体が「活動団体の構成員との交流を図ることができた」、123団体が「活動によって他の団体・人との交流を図ることができた」をあげている。

活動の成果（複数回答／上位）

①活動を通して団体目的の実現・自己実現を図ることができた	162団体
②活動団体の構成員との交流を図ることができた	137団体
③活動によって他の団体・人との交流を図ることができた	123団体

問10 「その他団体活動上の課題」について

14件の自由意見が寄せられた。

その内容は、「若い人が募集しても集まらない」、「指導者・構成員の高齢化」、「活動に参加する人はいるも長続きはしない」といった「メンバーの募集や構成に関すること」と、「練習場所の確保が難しい」、「活動場所が狭い」、「発表する会場の確保」といった「活動・発表の場の確保」に関することに大別できる。

問11-1 「メンバー確保のための工夫」について

164件の自由意見が寄せられた。

「区広報の活用」（31件）や「レガス広報の活用」（3件）といった区・財団の広報紙の活用が34件あったほか、「メンバーが勧誘」（17件）、「チラシ」（16件）、「口コミ」（15件）、「発表会場での募集」（13件）、インターネットでの募集（12件）など、団体及び構成員の日常的な活動や発表の場を捉えて、「メンバー確保のための工夫」を行っている回答が寄せられた。

また、「無料体験」（3件）や「参加費の減額」（1件）、「ホームページの作成」（2件）や「機関紙の作成（1件）」といった工夫もみられた。

問11-2 「活動や発表の場の確保の工夫」について

46件の自由意見が寄せられた。

「とにかく頑張る」（7件）、「施設の利用抽選に参加」（5件）、「複数人で申し込む」（2件）、団体登録による優先予約（2件）といった「施設の利用確保に対する努力」のほか、「区外施設の利用」（6件）、「既設のイベント・展示会への参加」、「他団体との合同による発表会」などの回答が寄せられた。

問11-3 「活動内容PRの工夫」について

35件の自由意見が寄せられた。

「口コミ」（6件）、「インターネット」（5件）、「チラシ」（5件）、「メンバーによるPR」（2件）のほか、区・財団の広報紙によるPR、生涯学習館でのPRなどの回答が寄せられた。

問11-4 「団体運営上の工夫」について

54件の自由意見が寄せられた。

「助成金の確保」、「会費の値上げ」、「チケットの売上げアップ」、「活動経費の削減」など活動経費面の工夫に関する回答が26件寄せられている。また、「会員自身がスタッフを兼任」、「地域へ支援を依頼」など、運営面での工夫について13件の意見が寄せられた。

問11-5 その他活動を続けていくための工夫

58件の自由意見が寄せられた。

問11-1から問11-4でみた「メンバー確保」・「活動や発表の場の確保」・「活動内容PR」・「団体運営」上の工夫について、改めて問11-5で回答されているものも少なくない。

問12 区の施策への満足度

- (1) 「施設・設備等の使用料の減免」については、「非常に満足」88団体（25.5%）について、「やや満足」73団体（21.1%）が多く、この2つをあわせると161団体（46.6%）が満足であると回答しており、ついで「普通」59団体（17.1%）との回答となっている。

施設・設備等の使用料の減免について

①非常に満足	88団体
②やや満足	73団体
③普通	59団体

- (2) 「施設の優先利用措置」については、「非常に満足」64団体（18.6%）、「やや満足」68団体（19.7%）となっており、この2つをあわせると132団体（38.3%）の団体が満足であると回答している。

また、「普通」67団体（19.4%）との回答も「非常に満足」、「満足」と同程度寄せられている。

施設の優先利用措置について

①やや満足	68団体
②普通	67団体
③非常に満足	64団体

- (3) 「施設・設備の充実」については、「普通」111団体（32.1%）と最も多く、ついで「やや満足」73団体（21.2%）となっている。

施設・設備の充実について

①普通	111団体
②やや満足	73団体
③やや不満	29団体

(4) 「区・財団広報紙を通じての活動内容のPR」、「区・財団広報紙を通じてのメンバー募集のPR」については、それぞれ「普通」との回答が125件程度（36%程度）と最も多く、「やや満足」、「やや不満」との回答がそれぞれ20件から30件程度あった。

区・財団広報紙を通じての活動内容のPRについて

①普通	125団体
②やや不満	36団体
③知らなかった	31団体

区・財団広報紙を通じてのメンバー募集のPRについて

①普通	124団体
②やや不満	36団体
③知らなかった	37団体

問13 最近3年間で学校や行政等の活動に参加したり、あるいは他の団体との協力や訪問等の活動を通して、活動を自主的に発表するなどをしたことがありますか。

「ある」との回答が129件（37.3%）あり、問13-1では、「区・東京都・国等」59件（17.1%）、「小・中学校、幼稚園、保育園、児童館等」14件（4.1%）、「高齢者・障害者施設」10件（2.9%）などが、参加や発表の場として回答されている。

問13-1 参加や協力などをした対象（上位）

①区・東京都・国等	59団体
②小・中学校、幼稚園、保育園、児童館等	14団体
③高齢者・障害者施設	10団体

また、「ない」との回答は162件（47.0%）あった。

問13-2（複数回答）では、その理由について、「協力・参加して活動を行う余裕がない」65件、「協力・参加のきっかけがない」64件が寄せられている。

参加や協力をしない理由（複数回答／上位）

①協力・参加して活動を行う余裕がない	65件
②協力・参加のきっかけがない	64件
③活動の目的がなじまない	31件

問14 区民の文化・芸術活動を活発にするために必要なこと。（自由記載）

134件の意見が寄せられた。その内容を大別すると次のとおりである。（計154件）

1 文化芸術活動を活発にするための広報・周知等について	(39件)
2 個人・団体・協会等の活動への助成・資金援助について	(9件)
3 施設利用の工夫・改善、使用料の減免等について	(35件)
4 活動・発表・練習の場、他団体との交流の場の確保について	(39件)
5 区の文化芸術振興施策について	(32件)

(1) 文化芸術活動を活発にするための広報・周知等について (39件)

[主な意見]

- ① 広報紙・インターネット等による広報・周知を充実させることが区民の関心を高める (20件)
 - ・ 区広報紙、財団広報紙等を通して、区民の関心を引きつける。
 - ・ 定期的、継続的な情報発信が大切。施設ごとの活動内容の一覧。
 - ・ 紙面、会場等を通じた情報発信の場を数多くつくる。
 - ・ インターネット上での活動の紹介
 - ・ マスメディアに取り上げてもらう工夫等
- ② 広報・周知の拡大が団体活動の活性化につながる (11件)

PRの機会の拡大が団体活動を活発にする。会員・運営費の確保につながる。無料体験の場が会員確保につながった等。
- ③ 個人・団体の活動内容と活動場所を結びつける情報や情報発信のしくみが欲しい (4件)

演奏活動と活動場所を結びつける情報が欲しい。興味関心のある人と団体を結びつける情報の場が必要。ボランティアでの演奏活動をする団体の情報が欲しい。
- ④ 商業的なプロデュースや企業・在勤者・学生・若者などへの情報発信が必要。(4件)

(2) 個人・団体・協会等の活動への助成・資金援助について (9件)

[主な意見]

個人・団体・協会等の活動への助成 (5件)、区民全員への助成、無形文化財への活動助成、高齢者・障害者施設への訪問を義務づけた助成金制度の創設

(3) 施設利用の工夫・改善、使用料の減免等について (35件)

[主な意見]

- ① 早朝利用時間帯の創設や利用時間帯区分の見直し、申し込み期間、電話による利用申込みの見直しやキャンセル手続きの簡素化、休館日の見直し・廃止、演劇団体への5日間の連続使用の承認、合唱講座を行う際の規制の緩和、名前だけの登録団体の排除など (15件)
- ② 施設使用料を軽減してほしい。無料としてほしい。個人の文化活動を対象とした使用料の減免を実施してほしい。共催による使用料減免の拡充 (見直し反対)。文化センター利用料が高すぎる。適正な料金設定。(15件)
- ③ 施設の近代化、施設内容の充実、絵画専用のスペース確保、バリアフリーの視点からの施設改善など (5件)

(4) 活動・発表・練習の場、他団体との交流の場の確保について (39件)

[主な意見]

- ① 成果を発表する場 (20件)

活動の発表の場が欲しい。発表の場は団体の目標・意欲を高める。区主催の行事、地域センター行事を拡充すべき。演劇祭の実施。フラダンスの合同発表の場。一部の人だけではなく皆が参加できる場。
- ② 練習の場 (2件)

練習の場がほしい。最新の設備より空間が必要。
- ③ 安く借りられる場 (4件)

④活動の場の拡大（5件）

中小の劇場をつくってほしい。もっと沢山の施設がほしい。教室ホールの確保。学校の開放など

⑤他団体との交流の場（8件）

- ・同じ活動を行っている団体、他団体との交流の場を増やす。（3件）
- ・他の団体と協力とか参加とか、手段がわからない。相互にシナジーを生む関係性を築く基盤が必要。地域にある文化・芸術を専門的に扱っている機関同士を結びつけるネットワークの構築が必要。在住在勤にとらわれずに門戸を開くことによる刺激。

(5) 区の文化芸術振興施策について（32件）

〔主な意見〕

(1) 文化芸術振興施策の取り組みについて（12件）

- ①日本の伝統文化、新宿区内の伝統文化を紹介する。日本の歳時を紹介する。
- ②新宿独自の歌や踊り等、区の誇りになるものをつくる。新宿からの「〇〇フェスティバル」を発信する。
- ③これまでの地域文化・歴史を踏まえた上での支援を行う。無形文化財の育成を支援する。（2件）
- ④各分野で活躍している人のワークショップの実施。区内在住の芸術家が集い、お披露目のイベントを行う。
- ⑤劇場のオープンディをつくり、区民が見学できる機会とする。
- ⑥新宿文化センターは、区民団体への貸出と別枠を設け、一般興業への貸出しでは利潤を上げる。催事の空き席情報のインターネットでの情報発信と当日の廉価販売
- ⑦芸術に関する公演等を低料金で提供する。
- ⑧小中学校教育での日本音楽の履修
- ⑨区の事業提案による月1～2回のイベントの実施。
- ⑩予算の十分な確保

(2) 区民に対する働きかけとして（9件）

- ①子どもたちに文化芸術鑑賞をさせる。
- ②若者から中高年層までは文化芸術に関わる機会は減少しているのでは。若い人（後継者）を育てることが活動を広げる。高齢者も参加できる企てやすい環境づくり。
- ③区外の主婦も参加できるシステム。託児や介護の充実など、文化芸術活動に参加しやすくなる支援の枠組みづくり

(3) 利用者ニーズの反映・人材バンク（5件）

利用者ニーズを横断的に捉えていくしくみづくり、区と団体代表とのコミュニケーションやディスカッションの場づくり、区・財団との日常的な交流の促進、人材バンクづくり

(4) 区職員・財団職員に対して（3件）

区担当者自身の創造性、積極的な会の活動への参加・関わり、担当者の継続性の確保

(5) その他（6件）

他区に比べてよくやっている。今のままでよい。社会全体の目が大切。団体活動の中で社会貢献。このような調査は無意味。知識がないため答えられない。